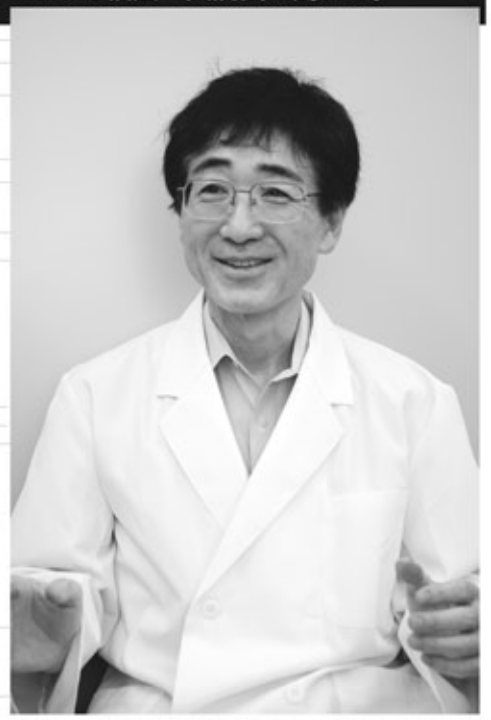
『ブドウ糖を絶てばがん細胞は死滅する!』『がんに効く食事　がんを悪くする食事』という２冊の本が、今、大きな話題を呼んでいる。なぜ、ブドウ糖を絶てば、がん細胞は生存できなくなるのか。著者であるがん専門医、銀座東京クリニックの福田一典院長に聞いた。

ブドウ糖を絶てばがんは死滅する！

というのは、本当なのか？



■福田一典医師（銀座東京クリニック院長・医学博士）
１９５３年福岡県生まれ。米国バーモント大学医学部生化学教室で「がんの分子生物学的研究」に没頭し、帰国後は、ツムラ中央研究所部長として漢方薬理の研究を行う。国立がんセンター研究所で「がん予防のメカニズム」の研究に従事し、岐阜大学医学部東洋医学講座の助教授を経た後、「銀座東京クリニック」を開設。がんの漢方治療と補完・代替医療を実践している。
「銀座東京クリニック」（☎０３・５５５０・３５５２）
東京都中央区銀座５－14－９

「がんの検査法でPET（陽電子放射断層撮影）というのをご存知ですよね。このPETの検査は、がん細胞が正常細胞に比べてブドウ糖をたくさん取り込む性質を利用したものなんです」と、福田院長。

がん細胞は、正常細胞の数倍から十数倍もブドウ糖を取り込むそうだが、どうしてこんなにブドウ糖（グルコース）に飢えているのか。その理由を福田院長はこう話す。

「がん細胞が増殖するためには、膨大なエネルギーの産生と、細胞分裂をするための材料が必要です。それをどこから調達するのか。実は、ブドウ糖からなんですね。がん細胞は、ブドウ糖の炭素骨格から核酸や細胞膜、アミノ酸などをつくり出し、どんどん細胞を増やしていくのです。逆に言えば、ブドウ糖がなければ、がん細胞は、増えることも生きることもできなくなるわけです」

私たちの体の正常な細胞は、ブドウ糖がなくても脂肪を燃焼させてエネルギーにし、脂肪とタンパク質、ビタミン、ミネラルがあれば細胞を増やして、体を正常に維持することができる。糖質（炭水化物）は5大栄養素の1つではあるが、正常細胞にとっては必須の栄養素ではないのだ。

しかし、がん細胞にとっては、ブドウ糖はなくてはならない必須栄養素。糖質から得られるブドウ糖が利用できなくなると、とたんに増殖も生存もできなくなるのである。

「このがん細胞と正常細胞の性質の違いを利用すれば、がん細胞だけを選択的に兵糧攻めにして、死滅させることができるわけです」

例えて言えば、がんはブレーキとアクセルが壊れて暴走するクルマのようなもの。暴走を止めるには、ブレーキやアクセルを修理するより、燃料を空っぽにしてしまった方が確実に止められると、福田院長は言うのである。

【糖質を絶つのは世界の医学の潮流】

がんとブドウ糖が密接な関係にあるというのは、突飛な話ではない。最新のがん研究でも、糖質代謝の異常が、がんの発症や悪化の原因になっていることがクローズアップされているし、DNAの分子構造の発見でノーベル賞を受賞した米国の生物学者ジェームズ・ワトソン博士も、「がんのグルコース代謝をターゲットにした治療法を開発すべきだ」と発言しているのだ。糖質を絶つという戦法は、先端のがん対策として世界的な潮流になりつつあると言っても過言ではないのだ。

「糖質を多く摂り過ぎる食生活によって、糖尿病もアルツハイマー病も、がんも急増したわけです。炭水化物はカロリー源としては優秀ですが、一方で、色々な生活習慣病をつくり出している諸悪の根源でもあるのです」

しかも、ブドウ糖の害は、がん細胞のエネルギーや細胞分裂の材料になるだけではない。

「糖質をたくさん摂るとインスリンの分泌が上がりますが、このインスリンは、がんの促進物質であることが明らかになっているのです」

抗がん剤治療をしながら、炭水化物を中心に片寄った食事をしていたら、がん細胞はすぐに修復して元気になってしまう。人類最大の敵であるがんと本気で闘うには、敵のことをよく知る必要があるのではないだろうか。

「ブドウ糖がなければ、がん細胞は生きていけない?!